

# 平野仁彦 教授 略歴・主な業績

## 略 歴

### 略 歴

- |                  |  |
|------------------|--|
| 1954 (昭和29) 年10月 | 三重県に生まれる   |
| 1973 (昭和48) 年 3月 | 三重県立桑名高等学校理数科卒業  |
| 1973 (昭和48) 年 4月 | 京都大学法学部入学  |
| 1978 (昭和53) 年 3月 | 京都大学法学部卒業  |
| 1978 (昭和53) 年 4月 | 京都大学大学院法学研究科修士課程入学   |
| 1980 (昭和55) 年 3月 | 京都大学大学院法学研究科修士課程修了 (法学修士)                                  |
| 1980 (昭和55) 年 4月 | 京都大学大学院法学研究科博士後期課程入学                                       |
| 1983 (昭和58) 年 3月 | 京都大学大学院法学研究科博士後期課程学修退学                                     |
| 1987 (昭和62) 年 8月 | 米国コーネル大学ロー・スクール大学院課程留学<br>(Fulbrighter) (～1989 (平成元) 年 6月) |
| 1989 (平成元) 年 5月  | 米国コーネル大学ロー・スクール LL.M.                                      |

### 職 歴

- |                  |   |
|------------------|---|
| 1983 (昭和58) 年 4月 | 京都大学法学部助手                               |
| 1986 (昭和61) 年 4月 | 三重大学人文学部講師                              |
| 1987 (昭和62) 年 4月 | 三重大学人文学部助教授                             |
| 1994 (平成6) 年 4月  | 立命館大学法学部助教授                             |
| 1995 (平成7) 年 4月  | 立命館大学法学部教授 (～現在に至る)                     |
| 2000 (平成12) 年 9月 | ハーバード大学客員研究員 (～2001 (平成13) 年 9月)        |
| 2004 (平成16) 年 4月 | 立命館大学法学部・大学院法務研究科教授 (～2013 (平成25) 年 3月) |
| 2013 (平成25) 年 4月 | 日本私立大学図書館協会会長 (～2015 (平成27) 年 3月)       |

\*上記のほか、愛知学院大学法学部 (英米法), 立命館大学法学部 (法思想史 '92.9～'94.3), 京都大学法学部 (法理学), 京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻 (法科大学院) (現代正義論) などで非常勤講師として教鞭をとる。

(学内役職歴)

- 1998 (平成10) 年 4 月 法学部主事 (～1999 (平成11) 年 3 月)  
1999 (平成11) 年 4 月 法学部夜間主コース主事 (～2000 (平成12) 年 3 月)  
2003 (平成15) 年 7 月 天野和夫賞選考委員会委員 (～現在に至る)  
2004 (平成16) 年 4 月 法学部企画委員長 (～2005 (平成17) 年 3 月)  
2005 (平成17) 年 4 月 法学部生涯学習・社会人担当主事 (～2006 (平成18) 年 3 月)  
2009 (平成21) 年 4 月 大学院法学研究科研究科長 (～2011 (平成23) 年 3 月)  
2009 (平成21) 年 4 月 立命館大学大学協議員 (～2011 (平成23) 年 3 月)  
2013 (平成25) 年 4 月 立命館大学図書館長 (～2015 (平成27) 年 3 月)  
\* 日本私立大学図書館協会会長を兼ねる

所属学会・社会活動等

- 日本法哲学会  
国際法哲学社会哲学会 (IVR)  
日米法学会  
日本法社会学会  
法理学研究会

学術・社会活動等

- 2002 (平成14) 年11月 日本法哲学会理事 (～現在に至る)  
2004 (平成16) 年11月 滋賀医科大学医学部付属病院治験審査委員会委員 (～2011 (平成23) 年 3 月)  
2009 (平成21) 年 1 月 日本法哲学会企画委員長 (～2010 (平成22) 年12月)  
2014 (平成26) 年 1 月 日本法哲学会奨励賞選考委員会委員 (～2019 (令和元) 年 11月)  
2014 (平成26) 年12月 科学研究費委員会審査委員 (～2016 (平成28) 年11月)  
2015 (平成27) 年11月 滋賀医科大学研究行動規範委員会委員 (～現在に至る)  
2016 (平成28) 年 4 月 滋賀県精神医療審査会委員 (～2017 (平成29) 年 3 月)  
2017 (平成29) 年 4 月 滋賀医科大学動物生命科学倫理委員会委員 (～現在に至る)

科学研究費助成

- 基盤研究(C)25380019 「生命倫理問題におけるソフトローの意義と実態に関する研究」  
(2013年 4 月 1 日～2017年 3 月31日)

## 主な業績

### 共著書・共編書

『法思想史〔第2版〕』

田中成明・竹下賢・深田三徳・亀本洋と共著  
(有斐閣)(1997年5月)

『法哲学』

亀本洋・服部高宏と共著(有斐閣)(2002年4月)

『現代法の変容』

亀本洋・川濱昇と共編(有斐閣)(2013年2月)

### 論文

『『市民的不服従』研究序説(一)

——その概念と位置づけを中心として——』

法学論叢111巻3号 p. 88 (1982年6月)

『『市民的不服従』研究序説(二)

——その概念と位置づけを中心として——』

法学論叢112巻2号 p. 30 (1982年11月)

『『市民的不服従』研究序説(三)・完

——その概念と位置づけを中心として——』

法学論叢112巻4号 p. 48 (1983年1月)

『法と市民的不服従

——市民的不服従の正当化に関する一考察——』

竹下賢編『実践地平の法理論』(昭和堂) p. 231 (1984年9月)

『現代の法哲学者たち R・M・ヘアー

——現代功利主義の擁護者』

法学セミナー No. 373 p. 140 (1986年1月)

『自然権論と功利主義

——R・M・ヘアーの理論をめぐって——』

法哲学年報1985『法哲学と社会哲学』

(有斐閣) p. 61 (1986年10月)

「R・M・ヘアー——現代功利主義の擁護者」

長尾龍一編著『現代の法哲学者たち』  
(日本評論社) p. 92 (1987年 8月)

「法の解釈と整合性

——R・ドゥオーキンの法解釈理論に即して——」

山下正男編『法的思考の研究』  
(京都大学人文科学研究所) p. 435 (1993年 1月)

「権利の主張とその実現——アメリカ法との対比で」

『岩波講座 現代の法15 現代法学の思想と方法』  
(岩波書店) p. 177 (1997年 6月)

「法制度における個人と普遍」

三島淑臣教授退官記念論集編集委員会編  
『法思想の伝統と現在——三島淑臣教授退官記念論集——』  
(九州大学出版会) p. 233 (1998年11月)

「法的自由と人格概念

——『負荷なき自我』についての一試論——」

立命館法学275号 p. 128 (2001年 7月)

「法の形成と『公共的理性』」

田中成明編『現代法の展望 自己決定の諸相』  
(有斐閣) p. 369 (2004年 5月)

「抵抗権と憲法遵守義務」

『岩波講座 憲法 6 憲法と時間』  
(岩波書店) p. 215 (2007年 5月)

「アメリカにおける法曹養成と法哲学」

法哲学年報 2006『法哲学と法学教育——ロースクール時代の中で——』  
(有斐閣) p. 100 (2007年10月)

「法的正当化における法原理の位置」

立命館法学333・334号 p. 1177 (2011年 3月)

「法の解釈と原理衡量——構造論的分析の試み——」

立命館法学343号 p. 1 (2012年10月)

「生命倫理とソフトロー」

平野仁彦・亀本洋・川濱昇編『現代法の変容』  
(有斐閣) p. 179 (2013年 2月)

「生命医学研究における法の位置と役割」

法哲学年報 2017 『生命医学研究と法』  
(有斐閣) p. 94 (2018年11月)

### 分担執筆

「第3部第2章 功利主義論争」

田中成明編 『現代理論法学入門』  
(法律文化社) p. 276 (1993年11月)

「第10章 アメリカ法思想とプラグマティズム」

「第14章 現代英米の法理学の展開」

「第15章 現代正義論とその展開」

田中成明・竹下賢・深田三徳・亀本洋・平野仁彦著 『法思想史〔第2版〕』  
(有斐閣) p. 166, p. 234, p. 256 (1997年5月)

「第1章第1節 法の現況と法哲学」

「第4章 法と正義の基本問題」

「第6章第2節 同一性と差異」

平野仁彦・亀本洋・服部高宏著 『法哲学』  
(有斐閣) p. 2, p. 125, p. 288 (2002年4月)

### 翻訳

ジョン・ロールズ 「市民的不服従の正当化 (一九六九年)」

ジョン・ロールズ著  
田中成明編訳 『公正としての正義』  
(木鐸社) p. 197 (1979年3月)

E. H. マデン 「市民的不服従」

『『市民的不服従』について (解説)』

L. クリーガーほか著 川崎修ほか訳  
『叢書ヒストリー・オブ・アイディアズ26 権威と反抗』  
(平凡社) p. 147, p. 230 (1988年3月)

ブライアン・バリャー 「相互性としての正義」

E・カメンカ/A・イアースーン・ティ編  
田中成明・深田三徳監訳  
『正義論』(未来社) p. 101 (1989年5月)

H. L. A. ハート 「効用と権利の間」

矢崎光圀・松浦好治訳者代表『法学・哲学論集』  
(みすず書房) p. 227 (1990年10月)

エリザベス・メンシュ 「主流法思考の歴史」

D. ケアリス編 松浦好治・松井茂記編訳  
『政治としての法——批判的法学入門——』  
(風行社) p. 14 (1991年7月)

エリオット・S・ミルシュタイン

「アメリカ法律家協会とアメリカ・ロー・スクール協会  
——役割の共通性とアジェンダの違い」

法律時報72巻8号 p. 49 (2000年7月)

## 紹介

「RONALD DWORKIN, TAKING RIGHTS SERIOUSLY,

Harvard University Press, 1977, pp. 293 + xv」

日米法学会『アメリカ法1980-2』 p. 250 (1981年3月)

「*Symposium in Honor of A. D. Woosley* :

*Law and Obedience*, 67 VA. L. REV. 1-248 (1981)」

日米法学会『アメリカ法1985-1』 p. 69 (1985年8月)

## 書評

「G・ラートブルフの『法哲学』」

ピーター・ミルワードほか監修『ザ・カルチュアバンク』

(PHP 研究所) p. 133 (1984年3月)

「『功利主義』再考」

木鐸 No. 16 (1984年5月)

「法システムの内と外——濱・高橋両論文について」

宇佐美誠・濱真一郎編著『ドゥオーキン 法哲学と政治哲学』

(勁草書房) p. 209 (2011年6月)

辞典・事典類

「悪法」「各人に彼のものを」「革命」「ケース・メソッド」

「衡平」「功利主義」「自然権」「社会学的法学」「社会契約説」

「正義」「プラグマティズム法学」「分析法学」

伊藤正己・園部逸夫編集代表『現代法律百科大辞典』（ぎょうせい）

1巻 p. 11, p. 427, p. 437, 2巻 p. 397,

3巻 p. 66, p. 102, p. 522, 4巻 p. 79, p. 82,

5巻 p. 7, 6巻 p. 619, p. 642 (2000年3月)

「アッカーマン、ブルース」「衡平」「市民的不服従」

「手続的正義」

大庭健ほか編『現代倫理学事典』（弘文堂）

p. 12, p. 279, p. 387, p. 610 (2006年12月)

その他

「一九九四年度日本法哲学会学術大会（於熊本大学）統一テーマについて」

「シンポジウム概要」

法哲学年報1994『市場の法哲学』

（有斐閣）p. 1, p. 103 (1995年10月)

「末期医療と自己決定

——シュナイダー教授を迎えて——」

立命館大学法学部ニューズレター3号 p. 2 (1995年11月)

「立命館大学法学部を築いた人々 加古祐二郎」

立命館大学法学部 百周年記念事業委員会

『立命館大学法学部創立百周年記念誌』

p. 72 (2000年9月)

「海外からのEメール通信① ハーバード大学より」

法学教室 No. 247 p. 6 (2001年4月)

「天野先生が遺されたもの」

立命館大学「天野和夫先生追悼文集」編集委員会編

『回想の天野和夫』（法律文化社）p. 56 (2002年3月)

「チャールズ川の流れに」

立命館大学法学部ニューズレター30号 p. 20 (2002年9月)

「アメリカにおける法曹養成と法哲学」

立命館ロー・ニューズレター48号 p. 7 (2007年3月)

「法学研究科の新しい展開」

立命館ロー・ニューズレター60号 p. 18 (2010年3月)

「人権というものの考え方」

立命館大学『未来を拓く——ようこそ立命館へ』  
p. 66 (2010年4月)

学会・講演会・報告等

「自然権論と功利主義」

日本法哲学会1985年度学術大会「法哲学と社会哲学」  
1985年11月6日 (於：九州大学)

「統一テーマについて」

日本法哲学会1994年度学術大会「市場の法哲学」  
1994年11月11日 (於：熊本大学)

「アメリカにおける法曹養成と法哲学」

日本法哲学会2006年度学術大会  
「法哲学と法学教育——ロースクール時代の中で——」  
2006年11月26日 (於：青山学院大学)

「ドゥワオーキンの法哲学と政治哲学 報告へのコメント」

日本法哲学会2009年度学術大会「リスク社会と法」  
2009年11月14日 (於：関西大学)

「自己決定権とソフトロー——生命倫理問題との関わりで——」

国際高等研究所研究プロジェクト「法と倫理のコラボレーション」  
国際高等研究所 2012年1月 (於：京都府木津川市)

「法のシステムと正義」

科研費研究プロジェクト「市民参加型司法プロセスにおける  
『情動的正義』の構築に向けた学融的実証的 研究」  
情動的正義研究会 2012年2月 (於：立命館大学)

「法の解釈と原理衡量」

山東大学威海分校法学院講演  
2012年3月 (於：中国山東省 山東大学威海分校)

「臨床研究の倫理を考える」(パネリスト)

人を対象とする医学系研究に係る教育・研修セミナー

2015年11月21日(於:キャンパスプラザ京都)

「臨床研究の倫理を考える

～個々の委員として何を果たすべきか?」(パネリスト)

人を対象とする医学系研究に関する教育・研修セミナー

2016年2月19日(於:主婦会館プラザエフ 東京都)

「生命医学研究における法の位置と役割」

日本法哲学会2017年度学術大会「生命医学研究と法」

2017年11月19日(於:大阪大学 豊中キャンパス)